

## 背景

- 国は、骨太の方針で、東京一極集中型から「多核連携型」への移行を掲げ、地方都市の活性化に向けた環境整備の推進を位置づけている。移動環境の整備は重要施策の一つであり「自家用有償旅客運送制度の創設」や「日本版MaaSの推進」等の取組が成長戦略に位置づけられている。
- 人口減少・少子高齢化を背景とし、公共交通の維持をはじめとした交通課題に直面している。生活サービス（買物や医療等）の維持も大きな課題であり、各種サービスとモビリティの連携による持続可能なまちづくりが求められている。
- 本市は「デジタルファースト宣言」のもとデジタル・スマートシティの取組を始動。データ活用等でMaaSの取組との連携が求められている。
- 「Withコロナ/ポストコロナ時代」の「ニューノーマル」に対応した新たな環境整備の一つである「デュアルモード社会」の構築も求められている。

## 活かすべき本市の強み

- 多様な暮らし方や楽しみ方を可能にする環境（国土縮図型都市／交通至便）
- 市民・企業のやらまいか精神や共助の心
- ものづくり力（世界的な輸送用機器メーカーや楽器メーカー等の集積／スタートアップグローバル拠点都市）

## 目指す方向性（基本理念）

### ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”と、浜松の暮らしはもっとかがやく

人口減少・少子高齢化で限られたリソース（ヒト・モノ・コト）をモビリティで繋ぎ、持続可能な都市を目指します。さらに、“繋ぐ”ことで価値を増幅し、浜松での暮らしをより豊かにし、来訪者にとっての魅力も高めていきます。

#### 必要な視点1：地域ごとの魅力の最大化

都市部から中山間地域まで多様な暮らし方・楽しみ方ができる本市の多様な魅力を最大化します。

#### 必要な視点2：ともに支え、ともに創造

人々の移動や地域を“ともに支え”、様々なモビリティサービスを創出することでより豊かな暮らしを“ともに創造”します。

#### 必要な視点3：しなやかに繋がる

利用者目線のシームレスなサービスや自然災害・パンデミックへの備えなど、しなやかに繋がる地域を構築します。

## MaaS推進の考え方

### 持続可能な地域を支えるモビリティサービスや取組例

“交通・生活課題”の解決や“安全・安心”な暮らしの確保

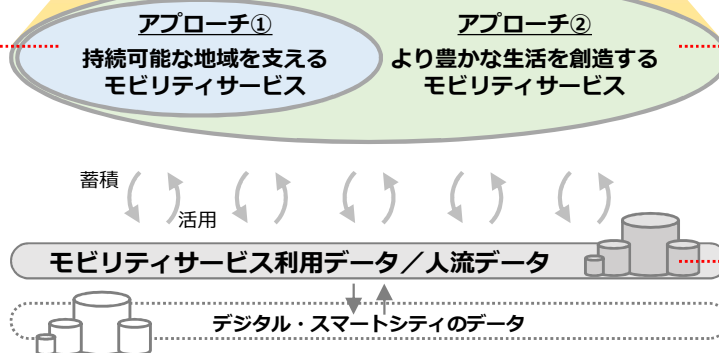
- 自家用車を使った乗り合いの促進（自家用有償旅客運送等）
- 異なる交通手段の連携や一体的運用・運営
- 遊休モビリティ資産の活用
- 移動診療や移動販売
- 移動や人流データの活用・見える化（公共交通の効率化、アプリ活用など）



市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」  
浜松市未来ビジョン実現への貢献

### ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことで浜松の強みを最大化

- 多様な暮らし方（多様性）
- 市民・企業の共助/共創（助け合い）
- ものづくり力（クリエイティビティ）



### より豊かな生活を創造するモビリティサービスや取組例

移動負担を軽減し“賑わい・ワクワク”を増進

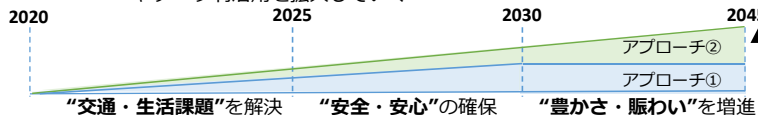
- 自動運転車の活用（移動時間も楽しく）
- デリバリープラットフォーム構築
- 多拠点生活用サブスクMaaS（関係人口向けの移動環境）
- 商業や観光施設等の連携（クーポン、ポイント、サイネージ...）



### データ活用にあたっての検討事項

- デジタルスマートシティの取組と連携し、データ活用ルールを整備

ロードマップ：交通・生活課題の解決から取り組み、モビリティ×サービスの連携分野やデータ活用を拡大していく



推進体制：市民・企業の主体的参加で創発性の高いエコシステム形成



- 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム  
同コンソーシアムを中核とし、官民共創による地域課題解決や地域活性化に資するサービスやソリューションを創出します。

